



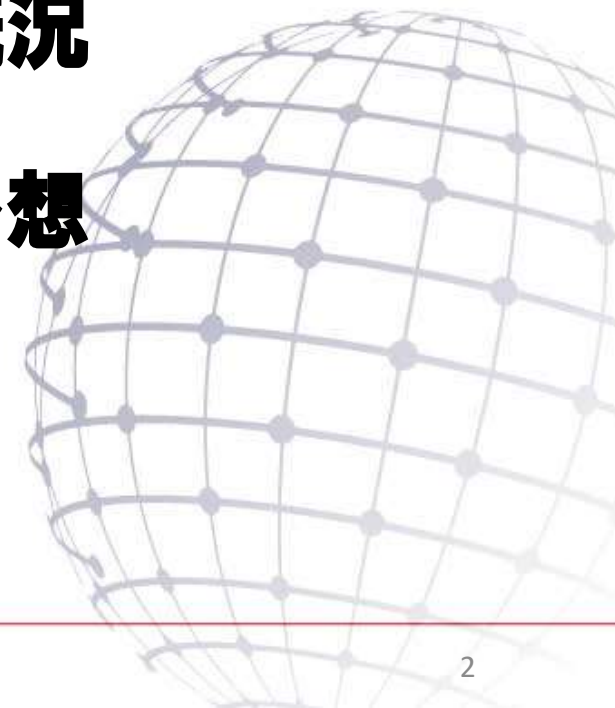
Okamoto

株式会社岡本工作機械製作所

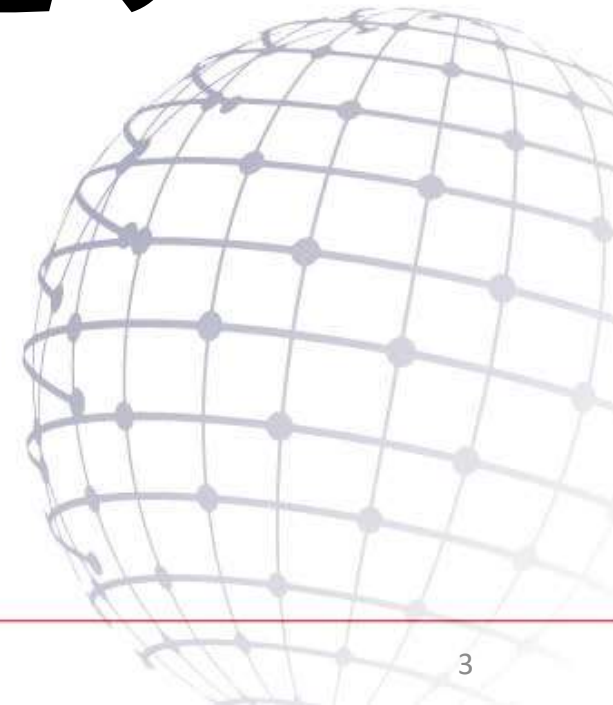
(証券コード：6125)

2019年3月期決算説明会資料

- 1 前中計振り返り**
 - 2 新中期経営計画について**
 - 3 2019年3月期 決算概況**
 - 4 2020年3月期 決算予想**
- Appendix**

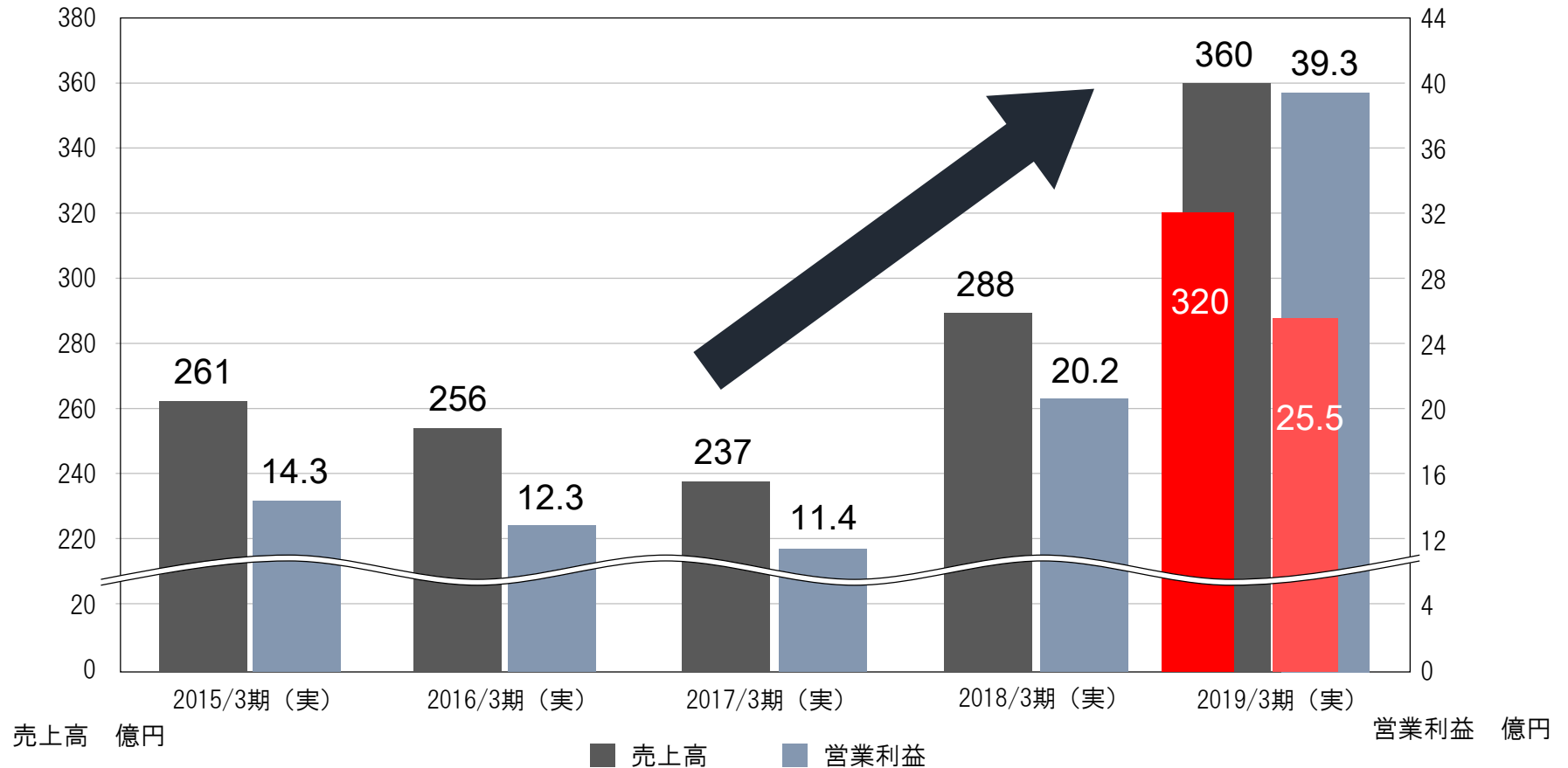


1. 前中計振り返り



中期目標達成状況

市場環境にも支えられ売上高、営業利益とも大幅に目標金額を超過



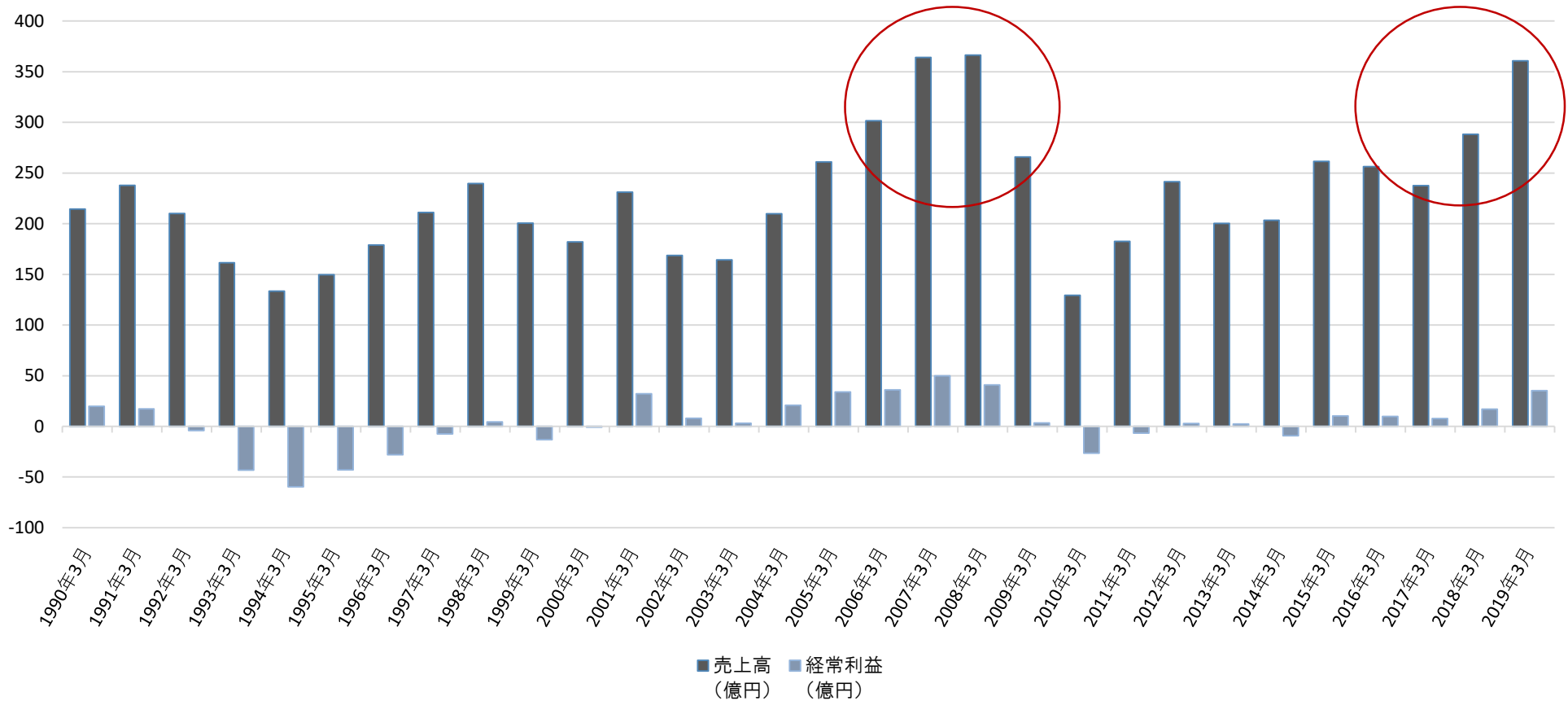
営業利益率目標8%⇒実績10.9%

海外売上高比率60%⇒実績45%

当社長期業績推移

売上高、経常利益ともリーマンショック前の水準に回復

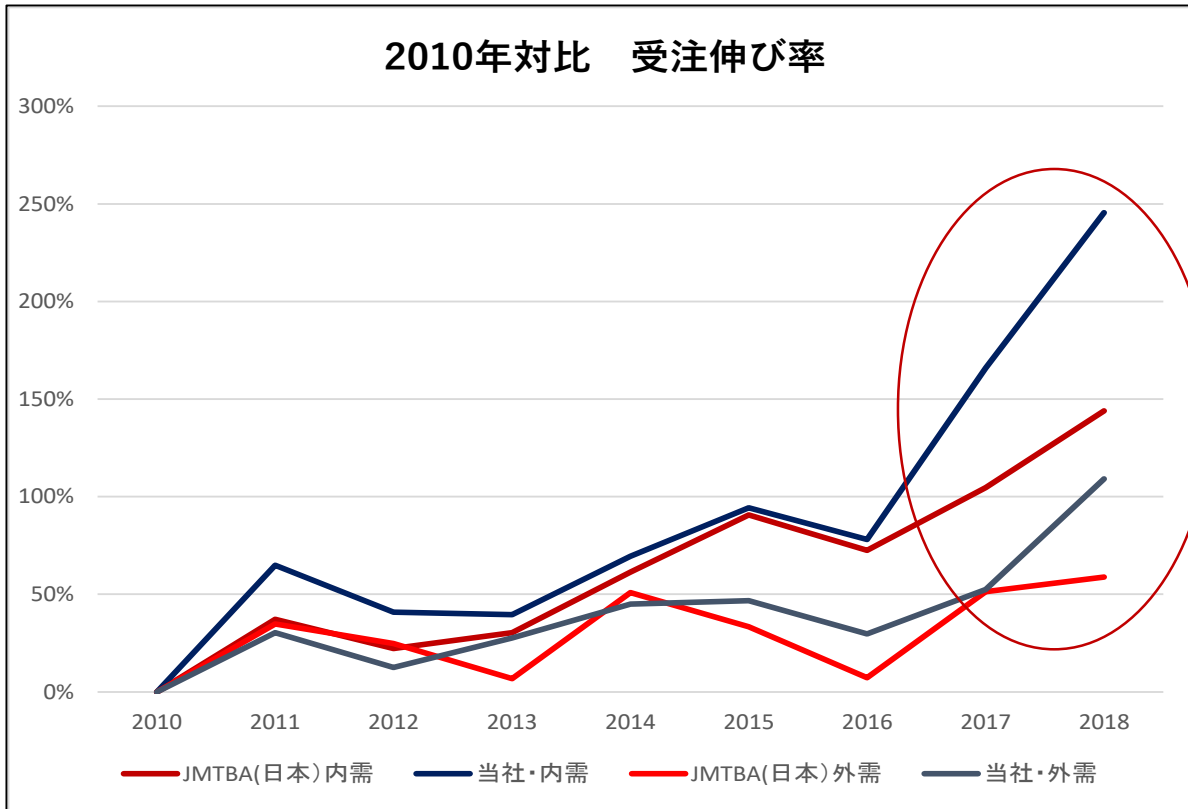
1990年以降の売上高・経常利益推移



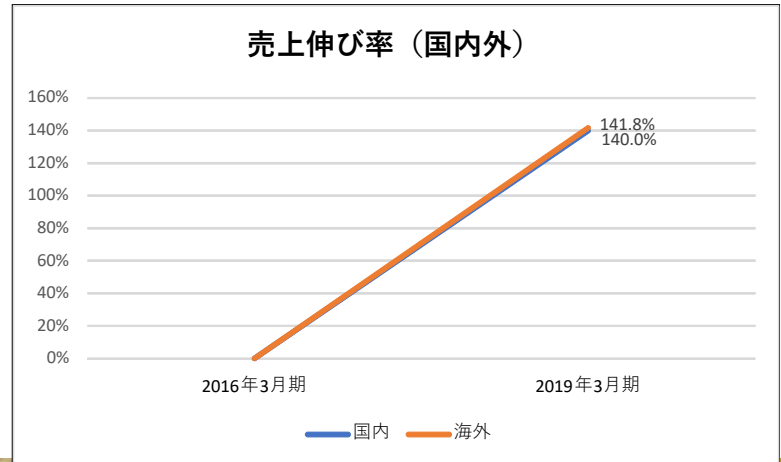
前中計期間の市場環境

世界経済の好調を受け、内外需とも上伸。受注、売上ともに高い伸びを実現

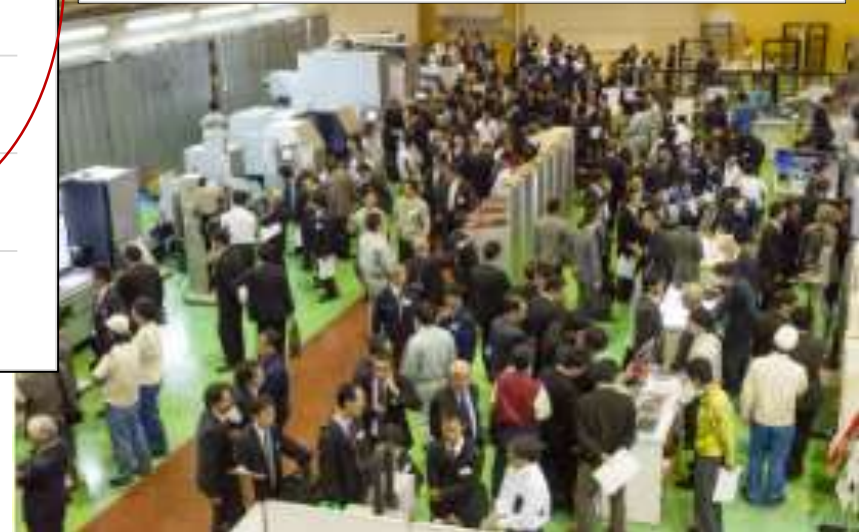
2010年対比 受注伸び率



売上伸び率 (国内外)



出所：日本工作機械工業会データより当社加工



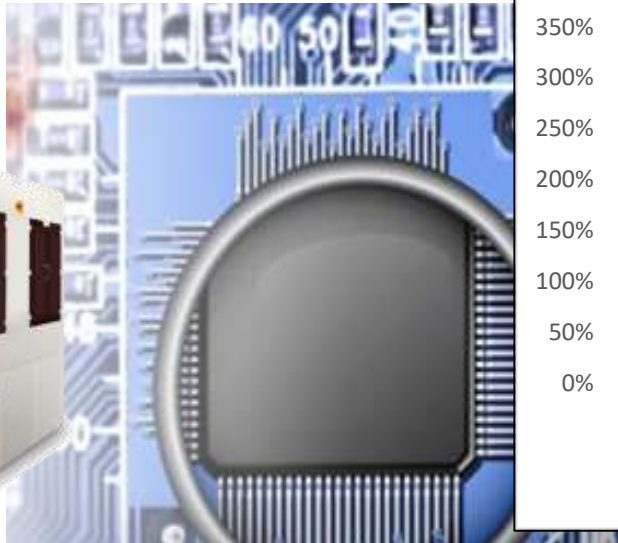
前中計期間の半導体関連装置 市場環境

スマートフォンの世界的な販売の伸び、自動運転、IoT、AI、など5Gの時代に予想される情報革命の進展などを背景に、リーマンショック以降抑えられていたウェーハ製造メーカーの設備投資が回復

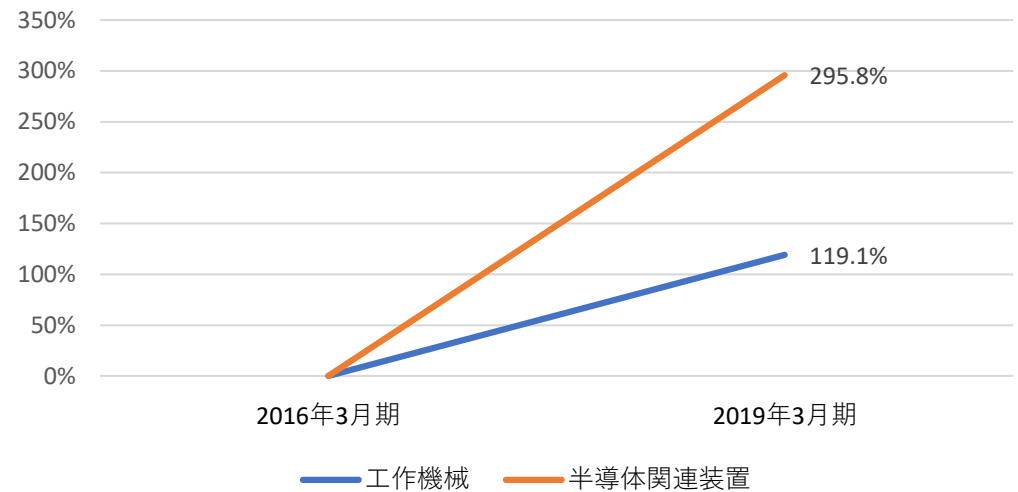
中国においても「中国製造2025」など国家的プロジェクトを背景に新興ウェーハメーカー立ち上げによる引き合いが活発化



PNX332B



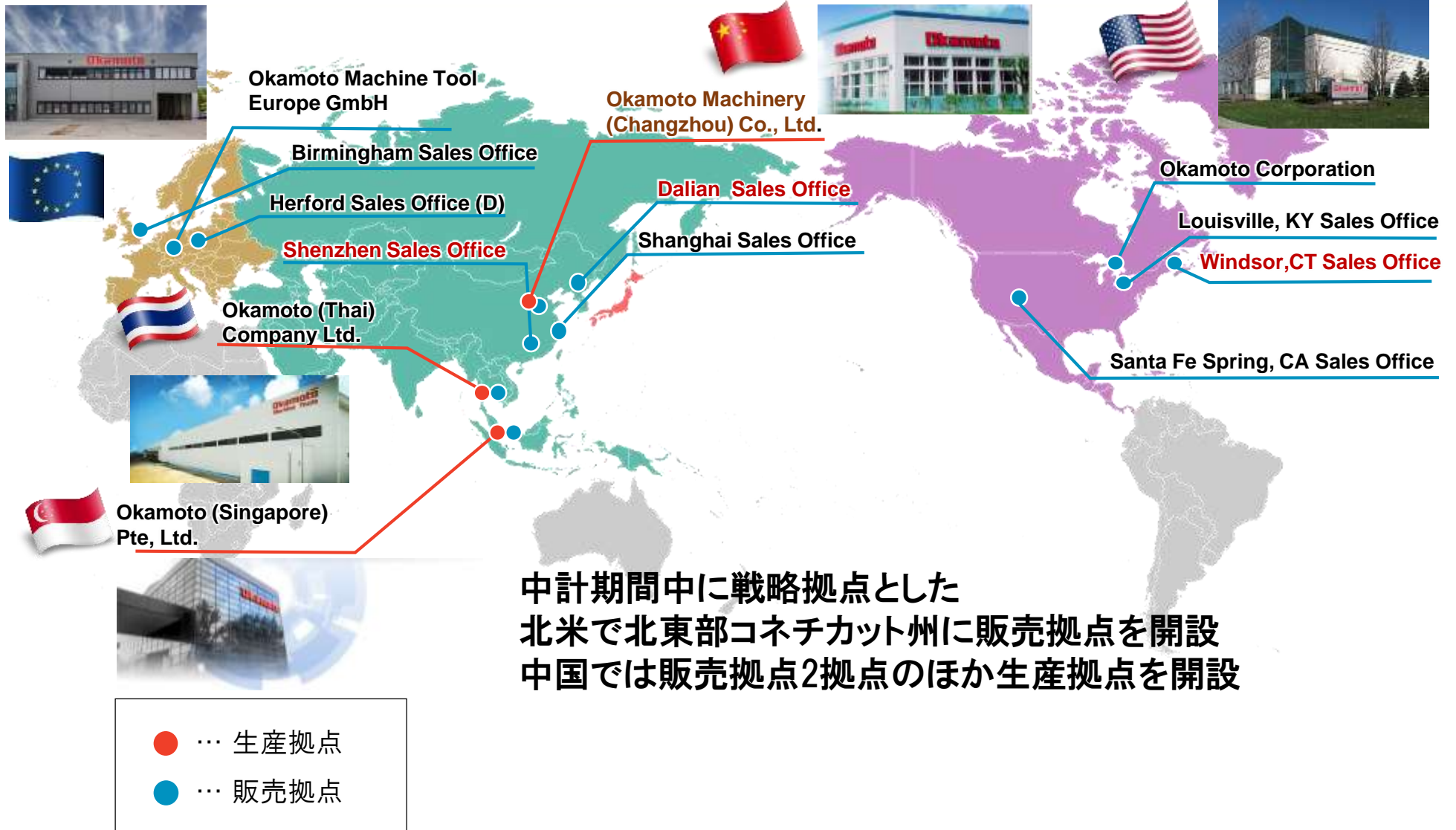
売上伸び率（工作機械・半導体関連装置）



中期経営計画施策

セグメント	施策
工作機械	<ul style="list-style-type: none"> ①海外販売の強化(北米・中国を戦略拠点に) ②新規販売機種重点販売 ③国内外の販売シェアの拡大
半導体関連装置	<ul style="list-style-type: none"> ①ポリッシュ装置重点販売 ②次世代パワー半導体用SiC、GaN、サファイア等の脆弱材料加工装置の拡販
工作機械(歯車)	拡大するロボット、自動車市場への拡販
工作機械(鋳物)	新規顧客の開拓
技術・生産	<ul style="list-style-type: none"> ①品質向上 ②平準化 ③サービス体制の強化 ④コストダウン ⑤効率化

海外拠点展開



中計期間中に戦略拠点とした
北米で北東部コネチカット州に販売拠点を開設
中国では販売拠点2拠点のほか生産拠点を開設

 **米国**

- ◆ 好景気を背景に、自動車、航空機関連を中心に堅調な展開
- ◆ 北東部コネチカット州に販売拠点を開設
- ◆ ショールームも拡充、大型機の常設、テスト研削ができる体制へ
- ◆ 自動化対応専任者を採用、自動化提案を拡大中
- ◆ 汎用平面研削盤中心の販売が続き、高付加価値機種への展開が課題



 **中国**

- ◆ 「中国製造2025」など国家施策を背景に半導体関連装置など引き合い活発
- ◆ 省力化、自動化投資も引き続き堅調
- ◆ 販売拠点を深圳、大連に開設のほか生産拠点も開設、中国内生産開始による認知度の向上などで販売も順調に推移
- ◆ 2018年後半から米中貿易摩擦の影響強く、慎重に推移を見守る



サドル型、コラム型、門型 新シリーズの投入

⚙️ サドル型精密平面研削盤の新シリーズ

- ・ロングセラーのPSG-DXシリーズのマイナーチェンジ機 PSG-GXシリーズを2018年10月から販売開始以来、日本国内100台、海外直送機30台の実績



⚙️ サドル/コラム型精密平面研削盤の新シリーズ

- ・次世代の主力機種となる PSG-SA1/CA1シリーズは、販売開始以来、日本国内281台、海外直送機30台の実績
- ・新サイズのPSG85SA1を新規開発し、ラインアップ
- ・グラインディング テクノロジー ジャパン 2019に出展



⚙️ 門型精密平面研削盤の新シリーズ

- ・可変静圧スライドに加え リニアモータ駆動を採用した高精度機 PSG-CHLiシリーズを投入し、国内外で更なる受注増加に期待
- ・門型機の国内外での需要が依然増加中
- ・PSG158CH-iQをグラインディング テクノロジー ジャパン 2019に出展



研削システム、コラム型、成形研削盤 新シリーズの投入

⚙️ 全自動研削システム「SELF」搭載の新シリーズ

- ・IoT時代にワークを置くだけで全自動平面研削が可能なシステム「SELF」を搭載した コラム型PSG-CA3-SELFシリーズを開発
- ・負荷・温度・振動等の情報を見える化し、ビッグデータを活用した適応制御を実現
- ・グライディング テクノロジー ジャパン 2019に出展



⚙️ コラム型超精密平面研削盤の新シリーズ

- ・左右静圧スライドを標準採用した UPG-CA1シリーズを開発
- ・オプションで最大3軸静圧スライド、といし軸静圧仕様に対応することが可能、さらにリニアモータ駆動にすることで机上測定や多彩な超精密研削が可能



⚙️ 超精密成形研削盤の新シリーズ

- ・新サイズをラインアップしたリニアモータ駆動の成形研削盤 UPZ-Liシリーズを開発
- ・5軸(左右・前後・上下・傾斜・回転)研削、5軸CAMで複雑形状の簡易研削を実現、多関節ロボットによる研削加工の自動化も可能
- ・UPZ63Li+ロボットをグライディング テクノロジー ジャパン 2019に出展



複合研削盤、内面研削盤、成形研削盤 新シリーズの投入

⚙️ 複合研削盤(円筒研削盤ベース)

- ・国内外からの引き合いも増加中
- ・ポリゴン研削等の特殊研削が可能
- ・UGM360NCをグライディング テクノロジー ジャパン 2019に出展



⚙️ 精密内面研削盤の新シリーズ

- ・2つのといし軸を標準搭載し、各軸独立した駆動機構を採用することで豊富なといしの組合せによる複合研削を可能にした IGM15NC-2SPを開発



⚙️ 高精度成形研削盤の新シリーズ

- ・油圧レス機構採用でメンテナンス性の向上、省スペースを実現した新世代汎用成形研削盤 HPG500NCSを開発
- ・手動操作ハンドルを残したまま、汎用と対話ソフトによるNC操作が両立
- ・高速反転(250反転/分 15mmストローク)により高能率研削が可能
- ・グライディング テクノロジー ジャパン 2019に出展



総括 新中計への課題

■ 総括

- 市場環境の追い風を受け、売上、営業利益、営業利益率とも目標を達成
- 海外売上高比率については、国内売上が好調に推移したため目標未達
- セグメントでは半導体関連装置がリーマンショック後、抑えられていた投資が復活、予想を超えた伸びを実現
- 技術についてはSI貫通電極ウエーハ全自動化薄化装置がJSTに採択、当社の高い技術力を証明

■ 新中計への課題

- 米中冷戦の影響などで、世界経済の不透明感強まる。景気変動に係らず利益を出せる強い企業、「安定した収益を確保できる企業への変革」を課題に
- 前中計の方向感を引き続き踏襲、海外売上高比率については内需堅調のなか、目標としては掲げないものの、海外売上を増やす努力を続ける
- 売上についてはほぼ横ばいも、利益率を向上させること(強い企業)を目標に

2. 新中期経営計画



市場環境認識

世界経済については米中冷戦の影響など、不透明要因が多いものの、自動運転やAI、IoT、5Gなど情報革命・通信革命に伴う技術開発の加速化を予想
半導体需要、工作機械需要とも底堅い推移を予想

工作機械 (国内)

- ・ 最終需要者として主力の自動車産業は横ばい若しくは緩やかな需要増加見込み
- ・ 累積販売台数は多数あり、更新需要期待

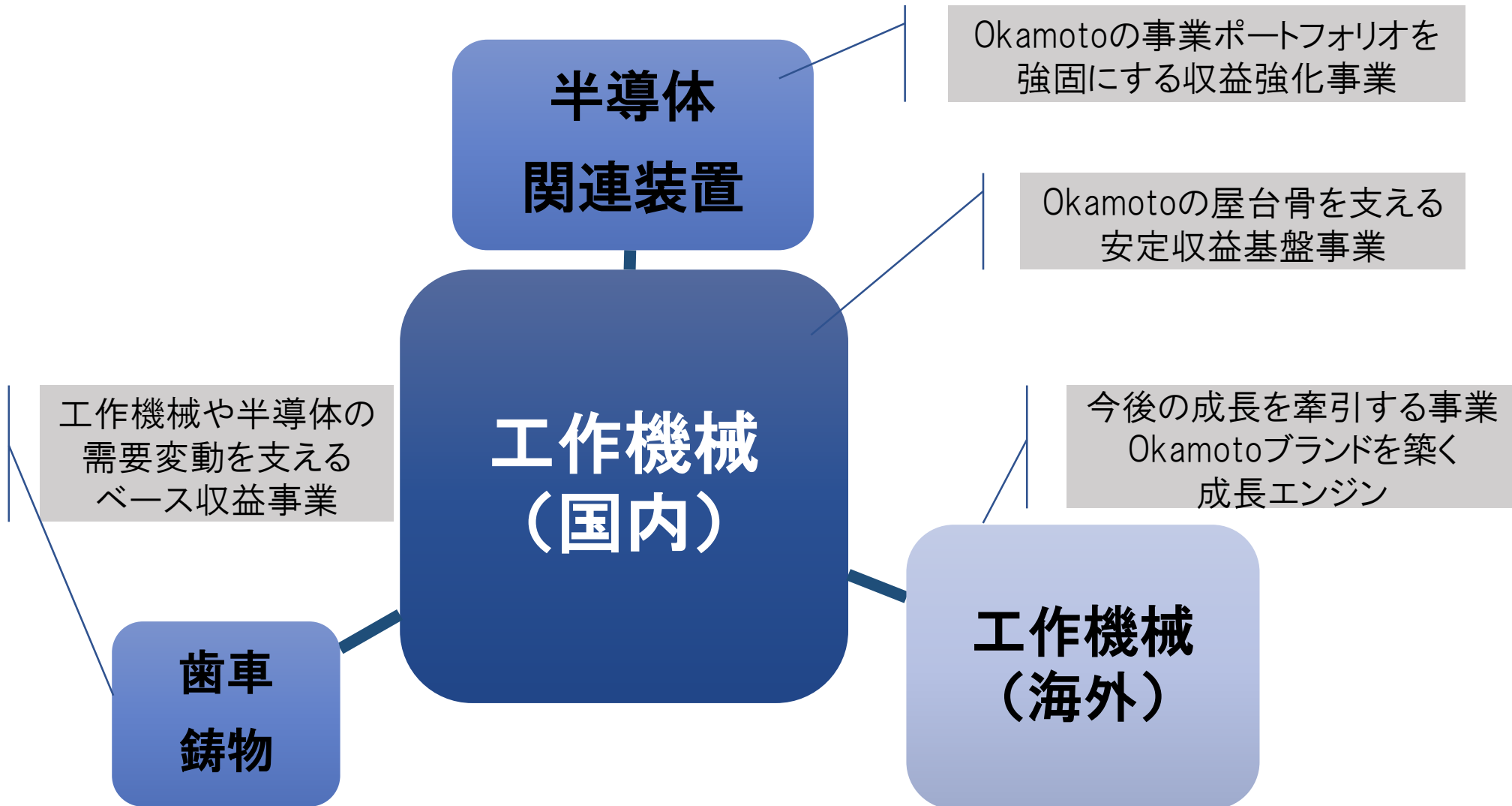
工作機械 (海外)

- ・ 米中冷戦、英国のEU離脱など、米国、欧州、中国とも政治リスクは抱えるものの当社にとってシェアの低いブルーオーシャン市場、成長市場は存在

半導体関連装置

- ・ 短期的にはスマートフォン需要の停滞、米中冷戦に絡む中国の落ち込みなどのリスクをはらむも、中長期的には各産業のデジタル化による需要の増加を想定

各事業セグメントの位置づけ



安定した収益を 確保できる企業

ダウンサイドに強い安定した
収益基盤の強化

持続的成長のための
エンジン事業の育成

Okamotoブランドの再構築

顧客ライフタイムバリュー強化

B to B → B with B

サービス体制拡充、高付加価値機拡販

グローバル戦線拡充

マーケティング機能強化、管理体制強化

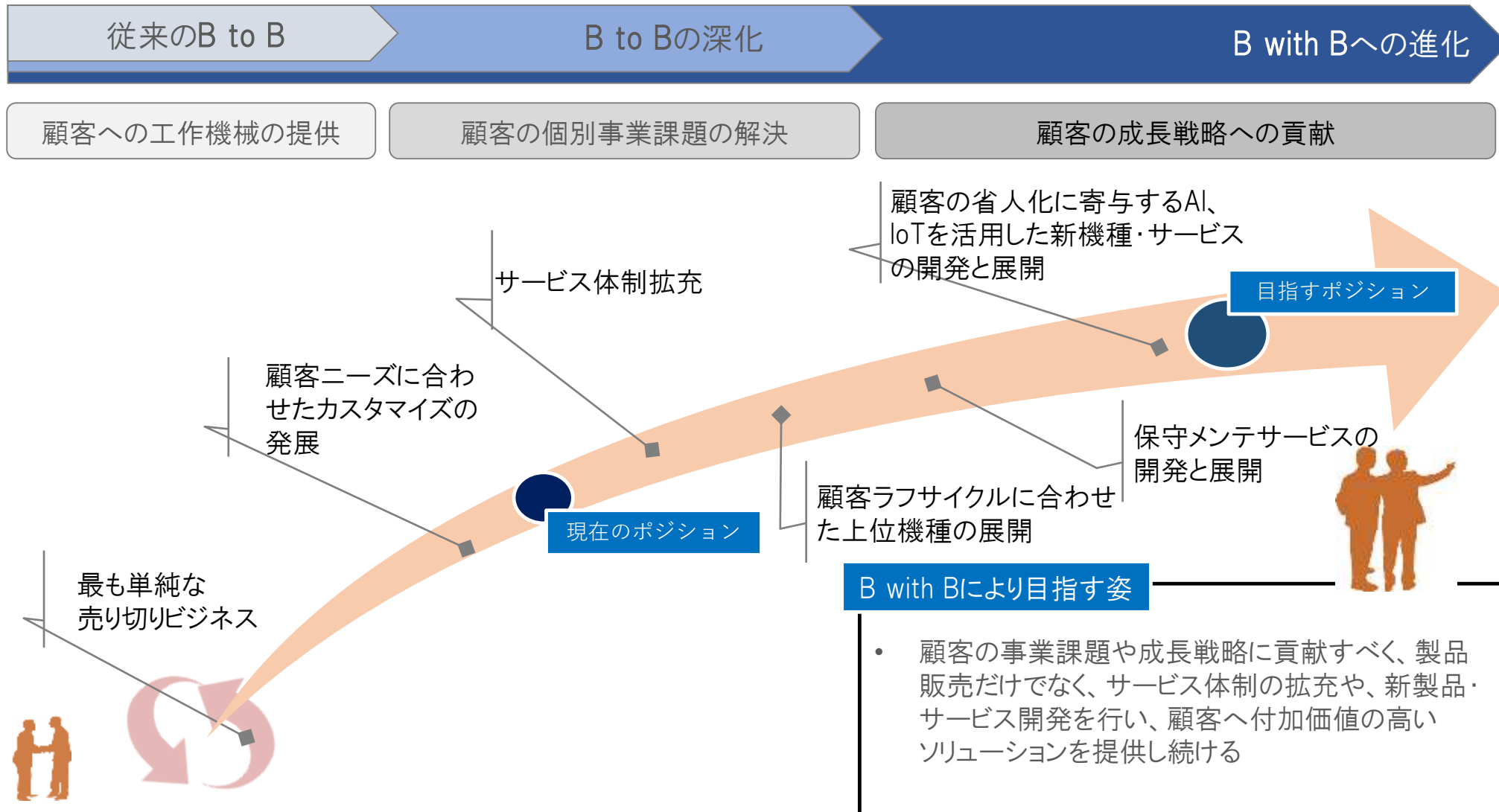
モノづくり改革

モノづくりの整流化、直送体制の確立

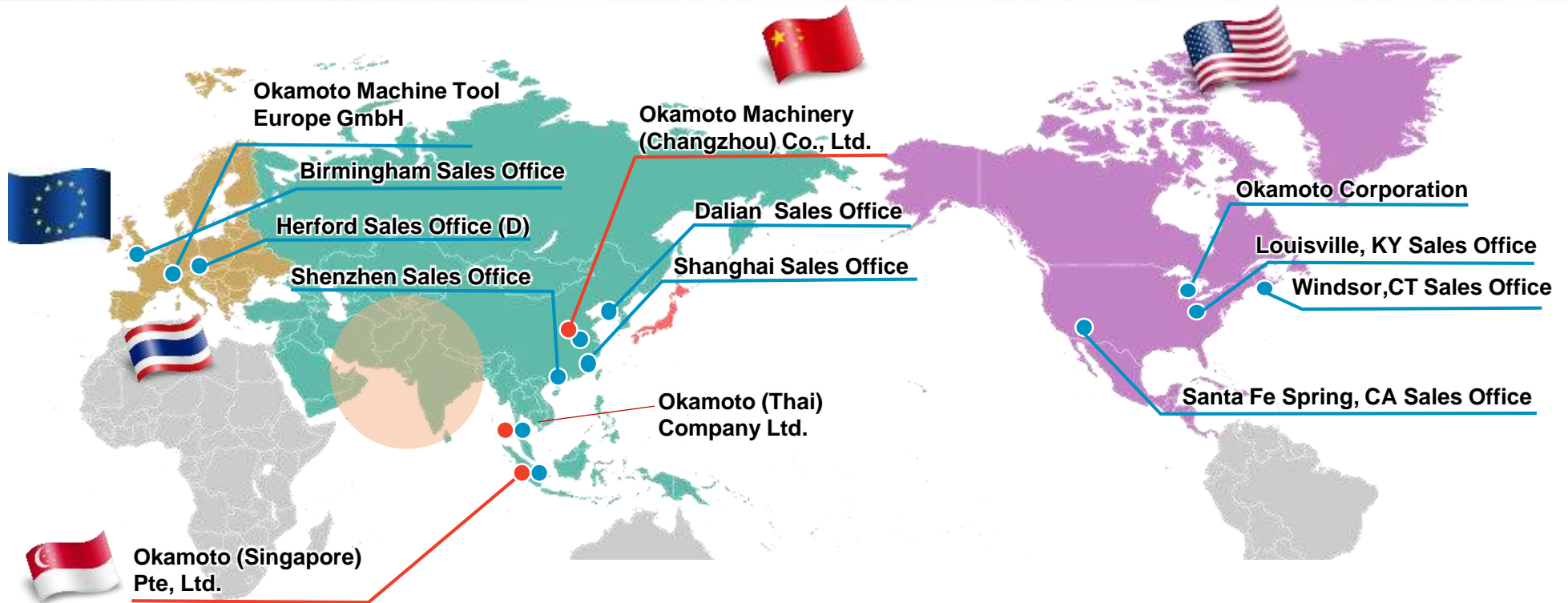
新中計 3大戦略と各セグメントの結びつき

事業セグメント	中計3大戦略			
	顧客ライフタイムバリュー強化 (B to BからB with Bへ)	グローバル戦線拡充	モノづくり改革	
工作機械(国内)	【サービス体制拡充】 <ul style="list-style-type: none"> サービス員増強 アフターパーツ即納体制の確立 保守メンテサービスの開発 【高付加価値機拡販】 <ul style="list-style-type: none"> 高付加価値機（上位機種）の拡販 	【マーケティング機能強化】 <ul style="list-style-type: none"> マーケティングにおけるPDCAの徹底 アプリケーションエンジニアの拡充 機種別担当性の導入 新拠点拡充（インド他） 	【モノづくりの整流化】 <ul style="list-style-type: none"> 生産、開発設計キャパシティの見える化（精緻化） 販売、開発、生産計画の連動と計画的なコストダウン グローバル生産体制の適正化 	【QCD改善】 <ul style="list-style-type: none"> 継続的な現場改善活動の実施
工作機械(海外)		【管理体制強化】 <ul style="list-style-type: none"> 管理対体制・組織体制の全社的な底上げ 中期経営計画に基づいたKPI管理の徹底 	【直送体制の確立】 <ul style="list-style-type: none"> 海外生産品直送体制の構築 	
半導体製造装置		<ul style="list-style-type: none"> 新機種開発（JST事業等） 	【コスト改善】 <ul style="list-style-type: none"> 計画的なコストダウン、内製化の推進 	

顧客ライフタイムバリューの強化



グローバル戦線の拡充

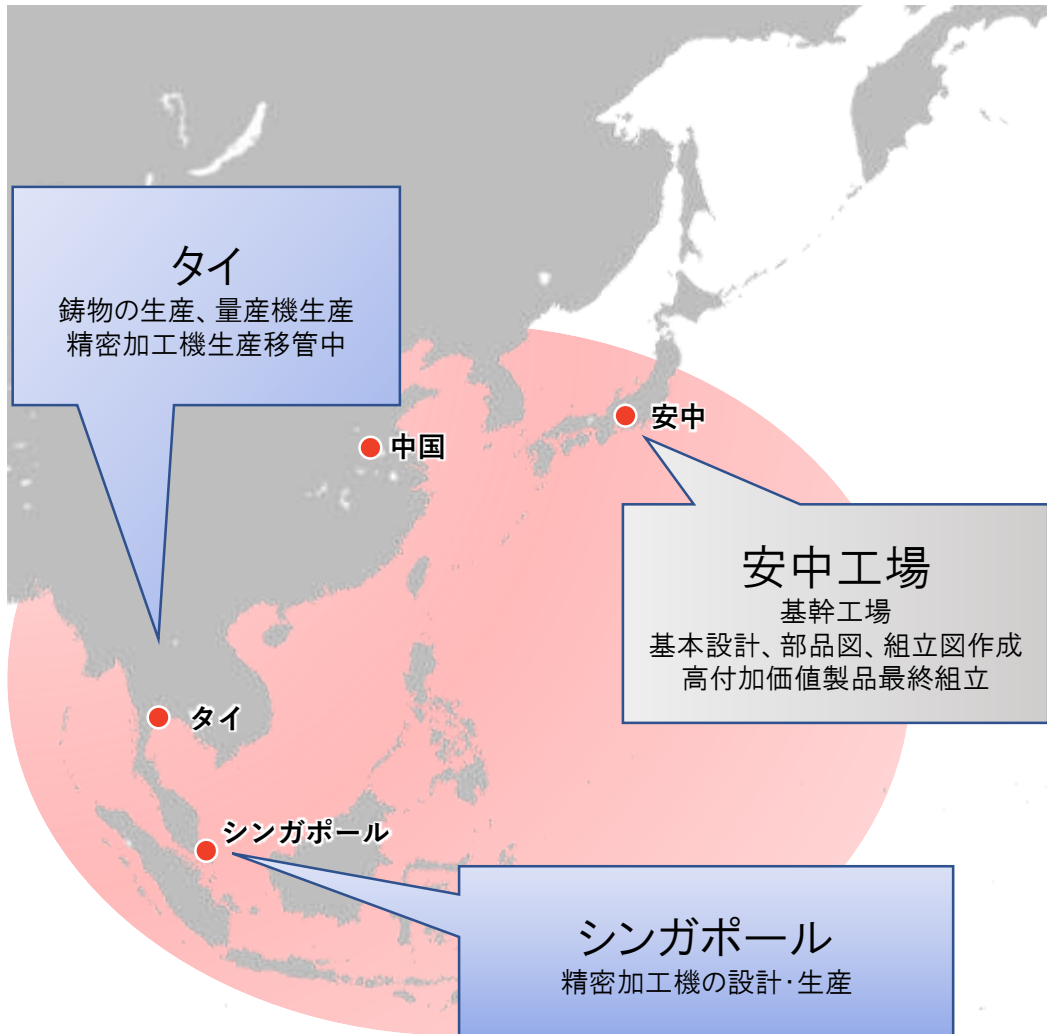


マーケティング機能を強化し、グローバルでの拡販と製品競争力を高める

- ・マーケティングにおけるPDCAの徹底
- ・アプリケーションエンジニアの拡充
- ・機種別担当制の導入
- ・新拠点拡充(インドなど)

- … 生産拠点
- … 販売拠点

モノづくり改革



モノづくりの整流化

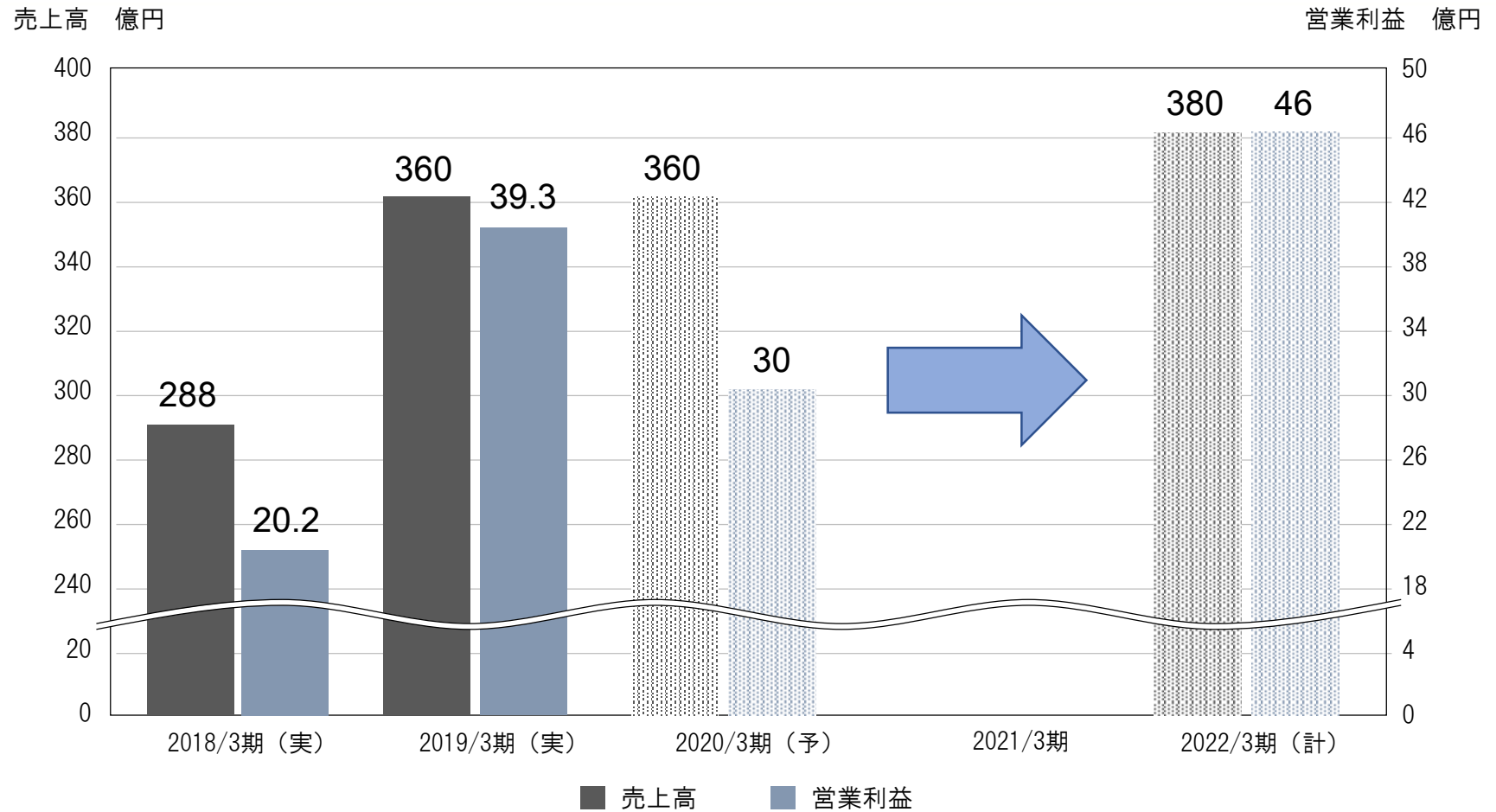
- 生産・開発キャパシティの見える化をし、生産、開発、販売計画の連動と計画的なコストダウンを実施
- グローバル生産体制の適正化

直送体制の確立

- 海外生産品を直接輸送可能な体制を構築することで納期短縮・費用削減を図る

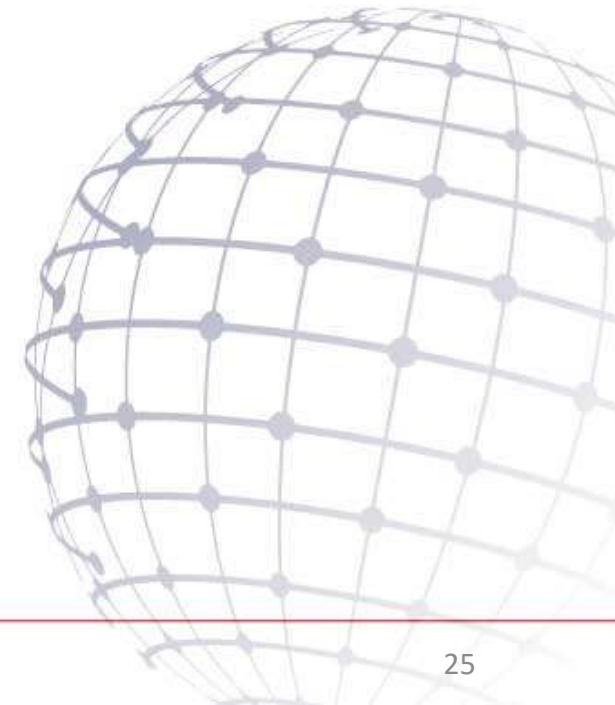


中期目標



営業利益率目標 12%

3. 2019年3月期 決算概況



2019年3月期の市場環境

■ 国内市場

- 工作機械業界、セラミック業界向け門型平面研削盤堅調、幅広い業種で精密平面研削盤の更新需要高まり、売上は順調に推移
- 大型平面研削盤も堅調、精密部品加工用途の超精密大型研削盤も受注
- 半導体関連装置はウェーハ、デバイス生産メーカーの増産対応設備投資を中心に好調を持続

■ 海外市場

- 北米は医療機器、自動車部品、航空機部品などの業種を中心に堅調
- 欧州は汎用タイプの平面研削盤引き続き堅調。代理店施策に伴う販路拡大効果もあり、自動車金型関連で大型平面研削盤受注増加
- 中国では米中貿易摩擦の懸念などあり、工作機械関連で落ち込みが発生、ただし自動車関連、精密金型や自動化設備への投資意欲は引き続き強く、受注量を確保
- 東南アジアは中国からの生産移設の動きもあり、引き合い活発

業績ハイライト

(単位:百万円、%)

	2018年3月	2019年3月	
	金額	金額	前期比増減率
売上高	28,827	36,067	+25.1%
売上総利益	8,872	11,856	+33.6%
販売費及び一般管理費	6,854	7,926	+15.6%
営業利益	2,017	3,929	+94.8%
経常利益	1,707	3,522	+106.3%
当期純利益	1,983	3,224	+62.6%

※小数点第2位を四捨五入

(単位:百万円)

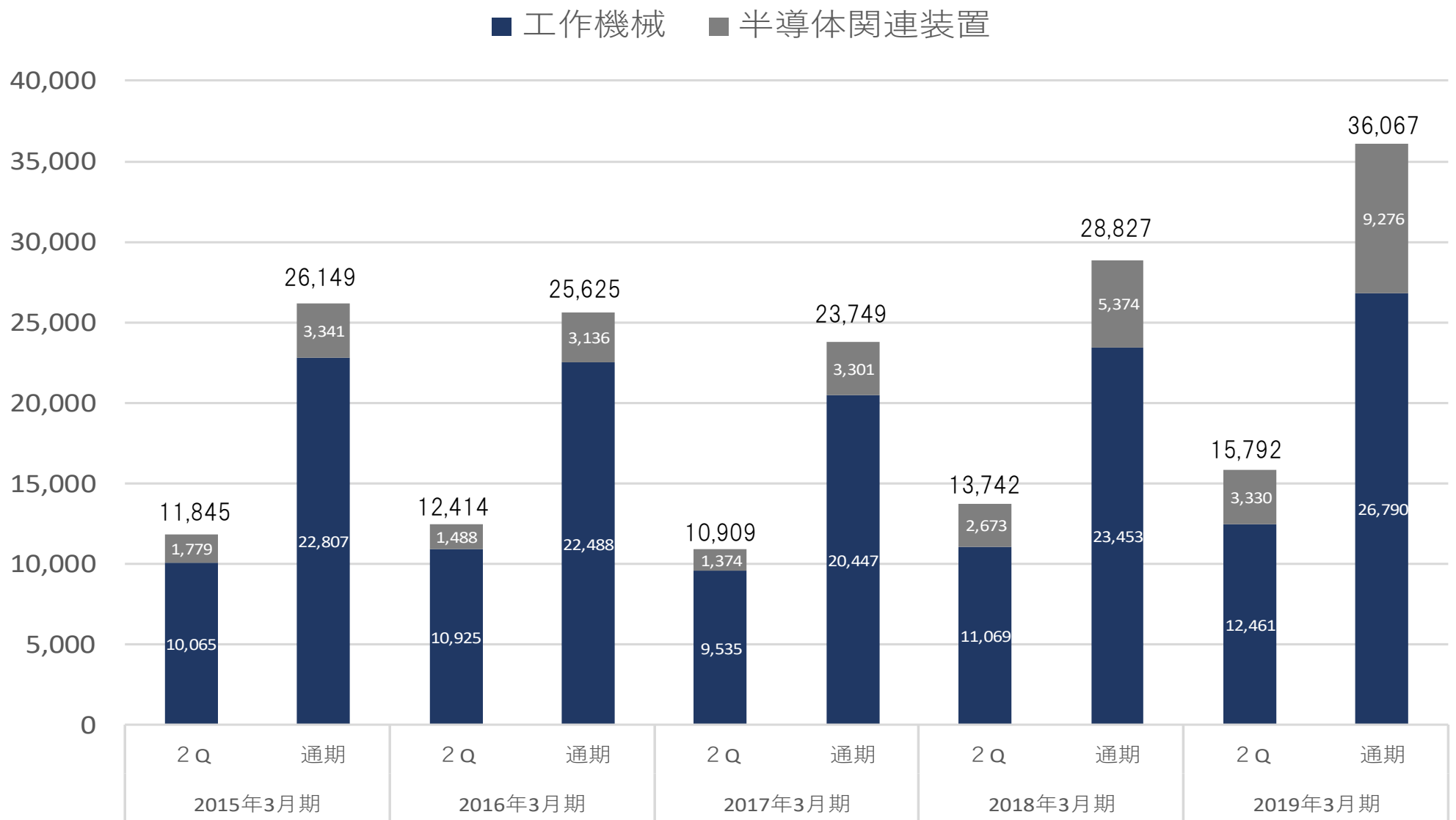
	2018年3月	2019年3月
	金額	金額
設備投資額	1,274	1,328
減価償却費	1,179	1,166
研究開発費	95	130

為替レート	2018年3月	2019年3月
米ドル	110.70	111.07
シンガポールドル	81.89	81.73
ユーロ	130.25	128.26
タイバーツ	3.36	3.43
人民元	16.78	16.50

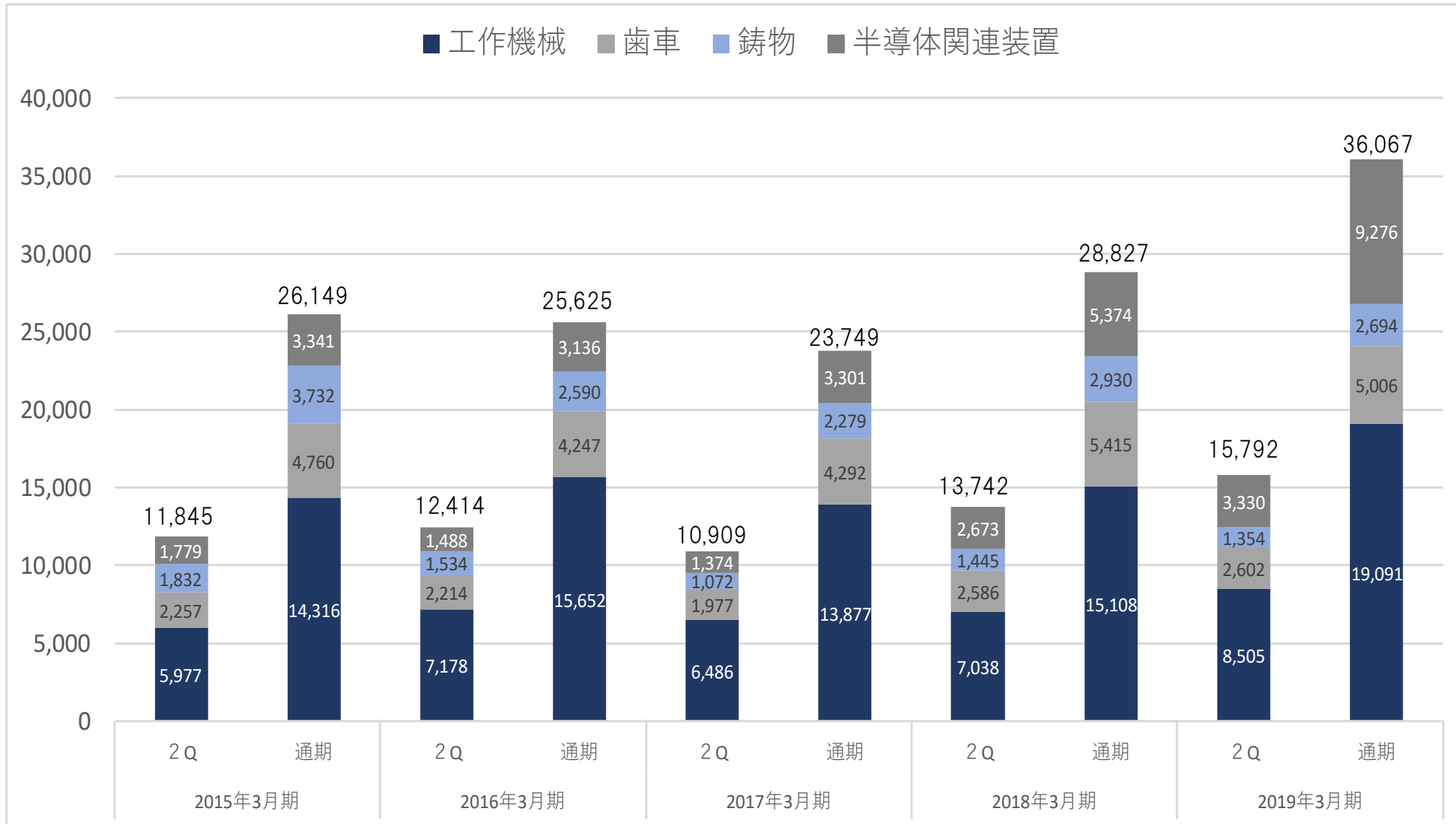
※期中の平均レートで記載しております。

- 前期比で売上高は72億40百万円、25.1%増加。営業利益は19億12百万円、94.8%増加
- 引き続き半導体ウェーハ、デバイス生産メーカーの増産設備投資に対応し、ファイナルポリッシャー堅調
- 工作機械業界向け門形平面研削盤堅調、幅広い業種で精密平面研削盤の更新需要活発

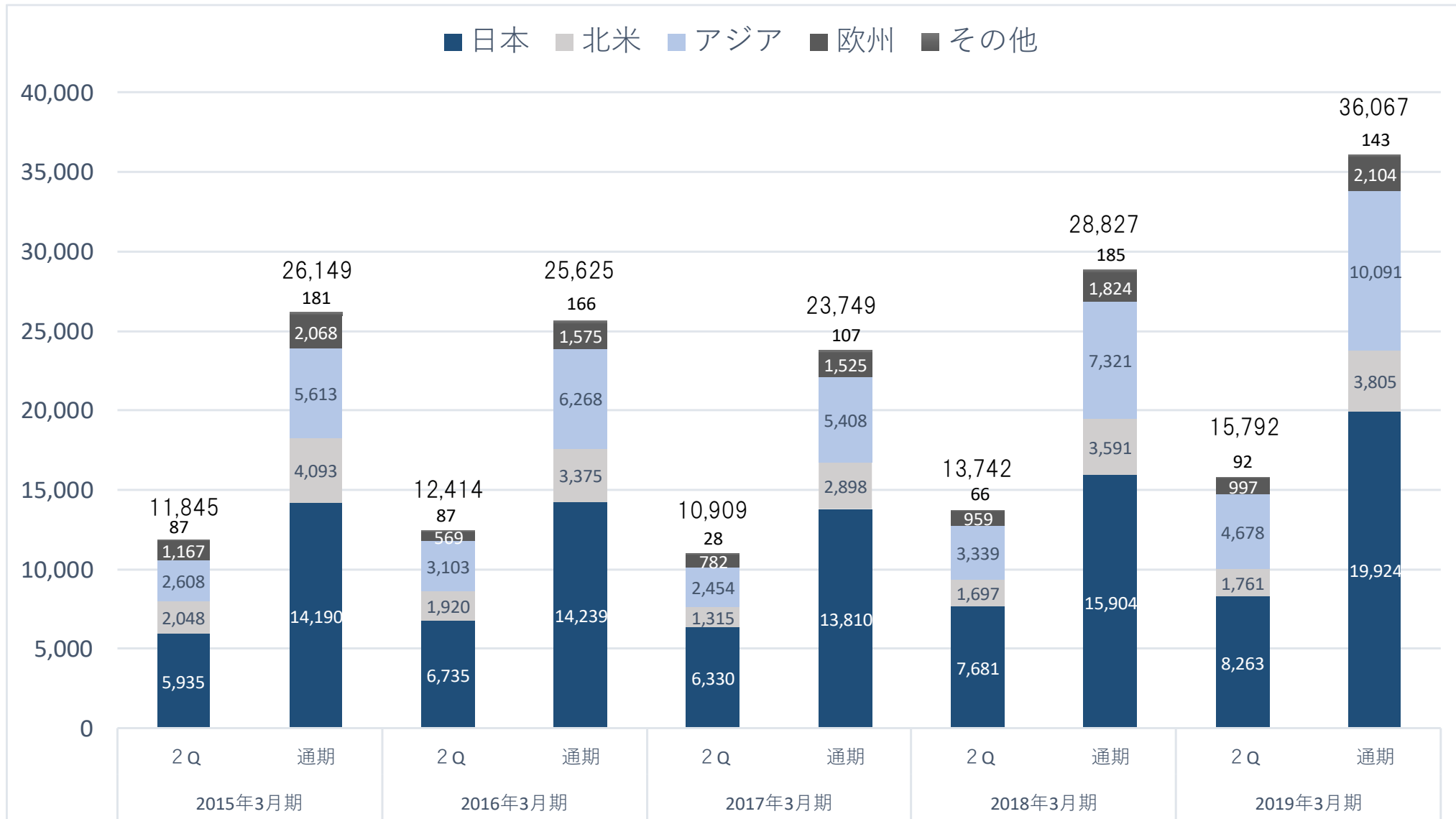
セグメント別売上高推移



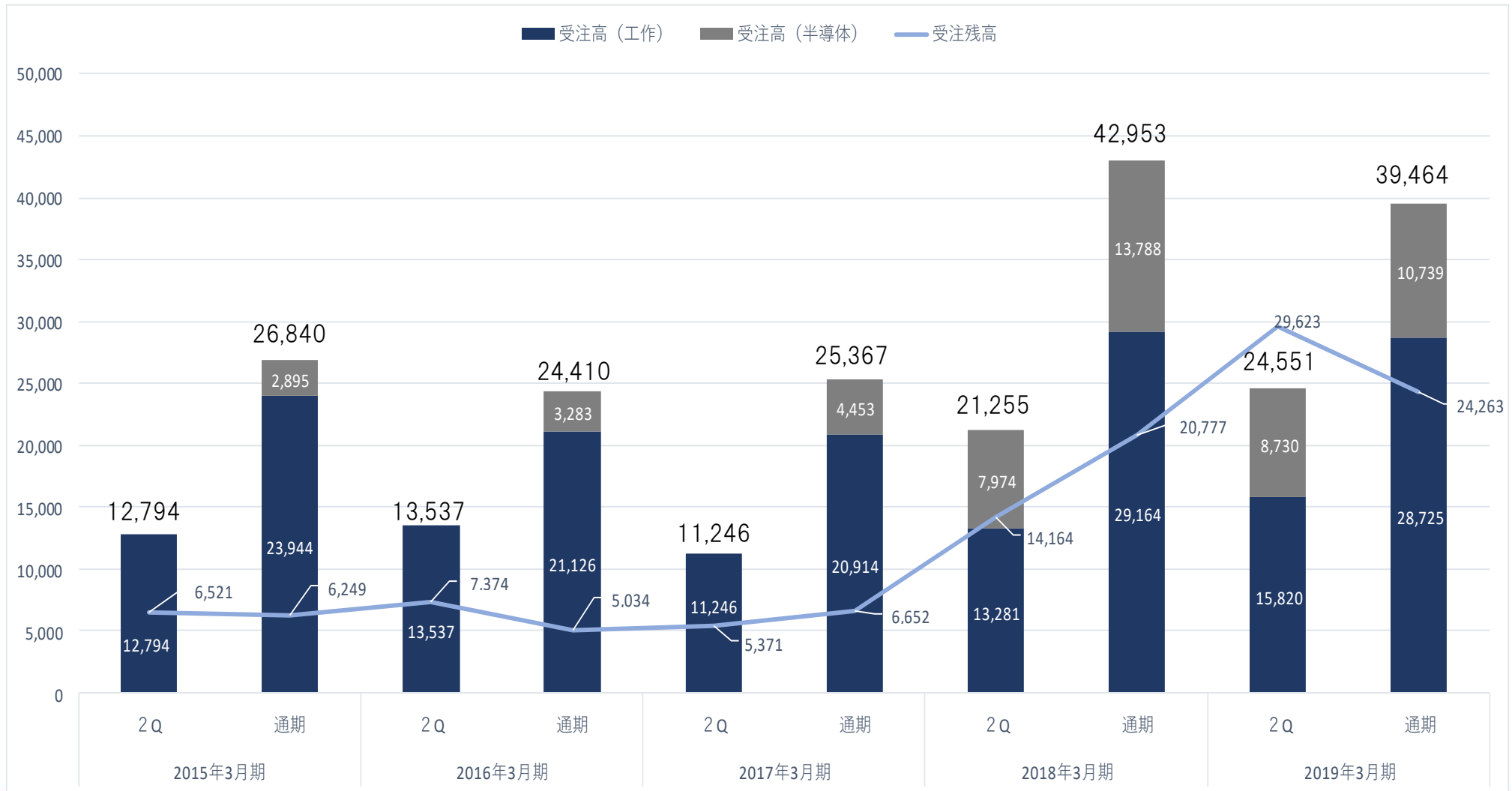
セグメント別売上高推移②



エリア別売上高推移



受注・受注残高



比較貸借対照表

(単位:百万円)

	2018年3月	2019年3月	
	金額	金額	対前期末比
流動資産	20,040	24,943	+4,903
現金及び預金	3,512	4,363	+851
受取手形及び売掛金	8,291	10,329	+2,038
棚卸資産	7,982	9,984	+2,002
有形・無形固定資産	9,792	9,839	+47
投資等	1,513	1,844	+331
資産合計	31,346	36,627	+5,281

(単位:百万円)

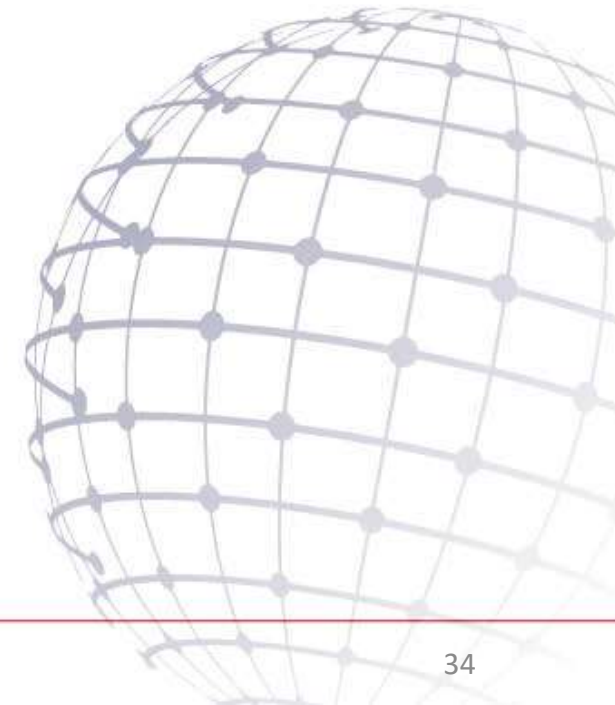
	2018年3月	2019年3月	
	金額	金額	対前期末比
負債合計	20,020	24,069	+4,049
流動負債	16,236	18,496	+2,260
固定負債	3,783	5,573	+1,790
純資産合計	11,326	12,557	+1,231
負債資本合計	31,346	36,627	+5,281

比較キャッシュフロー計算書

(単位:百万円)

	2018年3月	2019年3月	
	金額	金額	対前期末増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,201	4,355	+1,154
税引前当期純利益	1,702	3,520	+1,818
減価償却費	1,181	1,166	▲15
売上債権の増減 (▲は増加)	▲600	▲2,029	▲1,429
棚卸資産の増減 (▲は増加)	▲1,484	▲1,943	▲459
仕入債務の増減 (▲は減少)	1,571	1,947	+376
その他	831	1,693	+862
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲664	▲917	▲253
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲2,403	▲2,628	▲225
換算差額	15	26	+11
現金・同等物残高	3,455	4,291	+836

4. 2020年3月期 決算予想



2020年3月期の工作機械関連の市場環境見通し

■ 国内市場

- 設備投資は、能力増強投資や人手不足に対応した省力化投資を中心に増加を期待
- 歯車は今後のロボット関連での受注増加を期待
- 鋳物の生産については、現状レベルでの推移を予想

■ 海外市場

- 北米は医療機器・自動車部品・航空機部品・半導体及びオイル&ガス関連を中心に底堅い動き
- 欧州はドイツ・フランス・イタリア・ポルトガルなどで自動車・プラスチック金型・機械部品関連で引き続き堅調な動き
- アジアでは引き続き堅調な動きも、中国ではやや減速感有り

2020年3月期の半導体関連装置の市場環境見通し

■ 国内市場

- 足元では半導体設備投資低迷も、下期以降、5G、自動車のAI化やIoT、データセンター向け半導体需要の回復を期待
- 300mmウェーハ大手国内メーカーも、計画された生産能力を補強するための設備投資継続
弊社製品でもファイナルポリッシャーを中心とした高額装置の受注が弱含みながら継続

■ 海外市場

- 中国においては、米中貿易摩擦による半導体工場の新設計画の進みが鈍化
- 300mmウェーハ新興メーカーも投資判断に慎重さが増す
- 既に装置を導入、生産を開始したメーカーは次の量産投資計画の実行タイミングを窺う局面

2020年3月期業績予想

(単位:百万円、%)

(単位:百万円)

	2019年3月	2020年3月 (予想)	
	金額	金額	前期比増減率
売上高	36,067	36,000	▲0.2%
営業利益	3,929	3,000	▲23.6%
経常利益	3,522	2,850	▲19.1%
当期純利益	3,224	2,200	▲31.8%

※小数点第2位を四捨五入

	2019年3月	2020年3月 (予想)
	金額	金額
設備投資額	1,328	1,473
減価償却費	1,166	1,256
研究開発費	130	92

為替レート	2019年3月	2020年3月 (予想)
米ドル	111.07	108.00
シンガポールドル	81.73	80.00
ユーロ	128.26	125.00
タイバーツ	3.43	3.40
人民元	16.50	16.00

※期中の平均レートで記載しております。

2020年3月期の方針

受注残を抱え、一定の売上、利益の読める今期に、
景気変動に左右されずに「安定した収益を確保できる企業」への変革のための投資を予定
投資の方向性は、3大戦略に掲げたそれぞれの施策に沿う

顧客ライフタイムバリュー強化

サービス体制拡充(パーツセンター創設など)、高付加価値機拡販

グローバル戦線拡充

マーケティング体制強化

モノづくり改革

海外生産品直送体制の確立

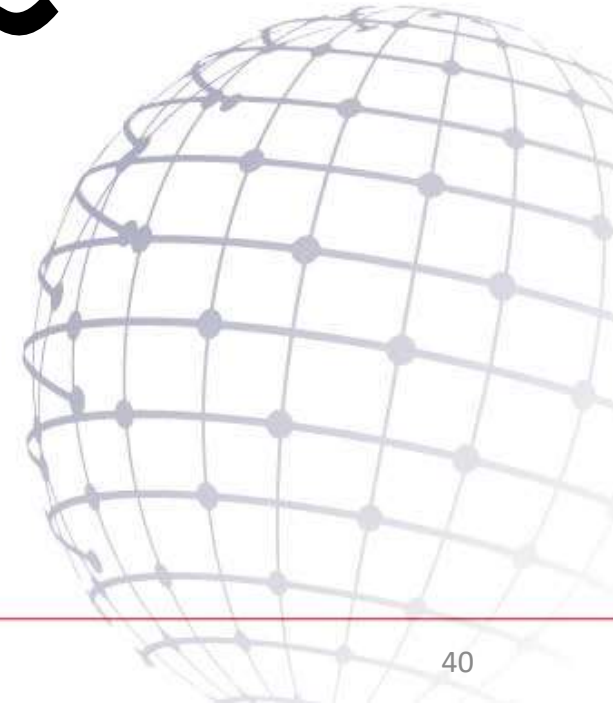
究極の
平面創成



Okamoto

Appendix

～ご参考資料～



⚙️ 会社概要

会社名 英文	株式会社 岡本工作機械製作所 Okamoto Machine Tool Works, Ltd.
創業	大正15年11月
設立	昭和10年6月
資本金	48億8051万円
本社所在地	〒379-0135 群馬県安中市郷原2993番地
事業内容	【各種研削盤・半導体関連装置の製造・販売】 研削盤（平面・成形・円筒・内面・歯車・周辺機器） 半導体関連装置（グラインディング・ポリッシング・ラッピング・スライシング）
従業員数	連結: 2,015名 単体: 405名 ※2019年3月末現在



沿革

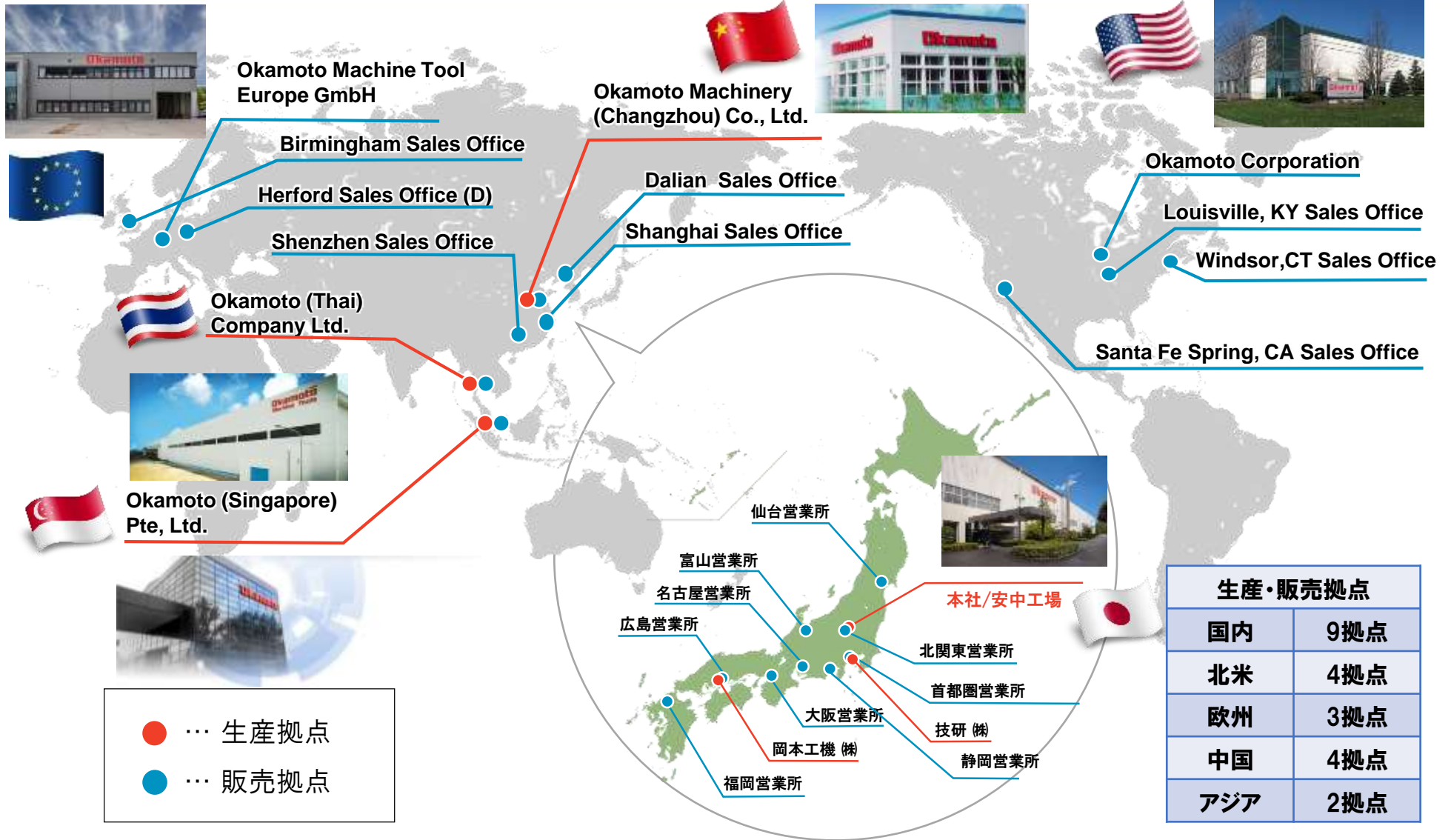
大正15年 (1926年)	岡本覚三郎が岡本専用工作機械製作所を創業
昭和5年 (1930年)	国産初の歯車研削盤 ASG-2型を完成
昭和10年 (1935年)	(株) 岡本工作機械製作所創立
昭和28年 (1953年)	国産初の平面研削盤PSG-6型完成 
昭和30年 (1955年)	国産初の外周刃スライディングマシン PSG-3GE型を完成
昭和38年 (1963年)	東京証券取引所市場第二部上場
昭和43年 (1968年)	世界初のCNC成形研削盤 NFG-5型を完成
昭和47年 (1972年)	米国に、オカモト・コーポレーション設立
昭和48年 (1973年)	シンガポール工場完成
昭和57年 (1982年)	群馬県安中市に安中工場完成
昭和61年 (1986年)	タイ工場完成
平成4年 (1992年)	ドイツに、オカモト・ヨーロッパ設立
平成8年 (1996年)	半導体事業本部を設立
平成9年 (1997年)	全自動立型高精度平面研削盤の開発で日本機械学会 技術賞受賞 全自動高精度高能率CMP装置の開発で砥粒加工学会 技術賞受賞
平成12年 (2000年)	高精度成形研削盤 UPZシリーズを完成
平成13年 (2001年)	スキヤニングポリシャーGNX300Pを完成
平成14年 (2002年)	中国・上海に駐在員事務所開設
平成16年 (2004年)	超精密平面研削盤 UPGシリーズ発売開始
平成24年 (2012年)	本社を群馬県安中市(安中工場)に移転
平成28年 (2016年)	Si貫通電極ウェーハ全自動化薄化装置 JST課題採択



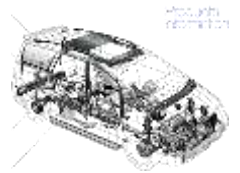
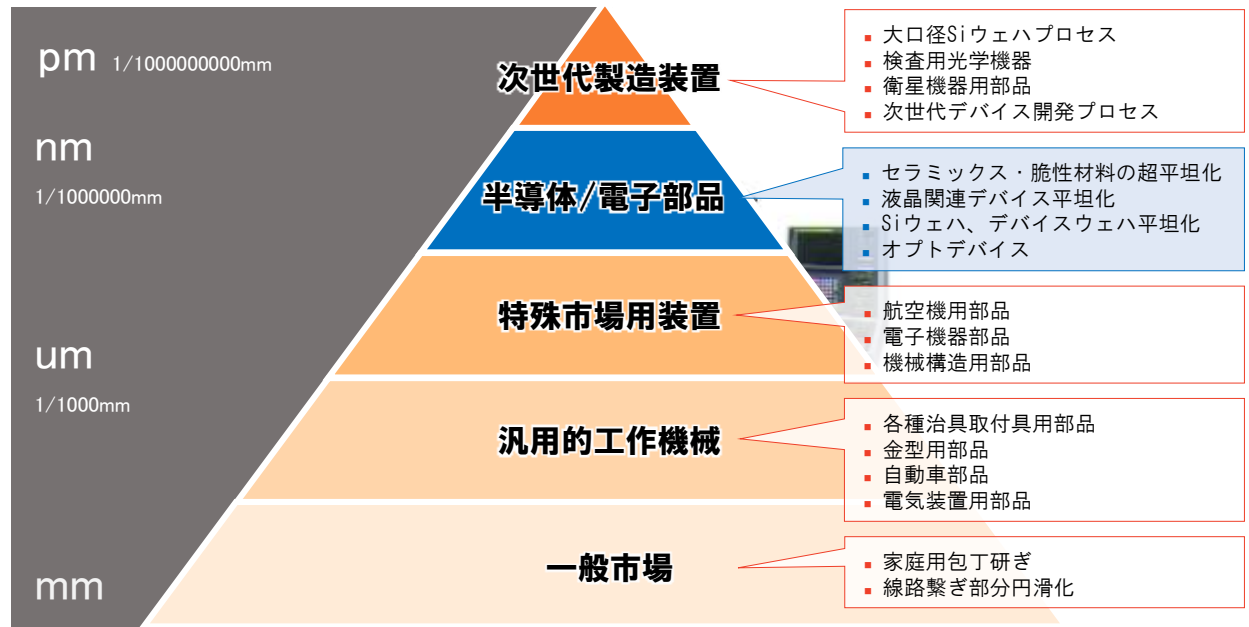
創業者 岡本覚三郎



国内拠点、海外拠点



あらゆるニーズへの対応～豊富な機種構成



1953年生産開始以来65年

- 出荷台数：総計80,000台以上
- 出荷国数：世界約80カ国
- ユーザー数：世界20,000社以上
- 国内推計シェア：40%

※半導体製造装置は除く



研削盤の機種別分類

700万円



PSG-CA1 シリーズ
(高能率研削仕様)



スマートフォン
時計・カメラ
ロボット
自動車
他

2000万円



UPZ-Li シリーズ
(リニアモータ駆動)



液晶テレビ
コンピュータ
時計・カメラ
自動車
他

5000万円



UGM360NC
複合加工機



自動車
船舶
精密スピンドル
工作機械
他



UPG-NCシリーズ
超精密大型研削盤



航空機
液晶テレビ
測定器
工作機械
他

半導体製造装置の機種別分類：主力製品

6000万円



GNX200B
SiCウェーハ用グラインダー



次世代パワー半導体SiC
電気自動車、電車、PC
他

15000万円



GDM300
ウェーハ薄化用
インライングラインダー



スマートフォン
PC
他

23000万円



PNX332B
ファイナルポリッシャー



8"、12"Si 材料ウェーハ



SPP800ATB
バッチ式ウェーハポリッシャー



スマートフォン
SAWフィルター

半導体製造装置の機種別分類：関連製品

7000万円



SiSG156HT
太陽電池インゴット複合研削盤



太陽電池・ソーラーパネル

20000万円



PSG-CHシリーズ
門形平面研削盤



液晶(LCD)テレビ・ディスプレイ

30000万円



SPP3800
ピッチポリッシャー





本資料に関するお問い合わせ先

株式会社 岡本工作機械製作所
総務部
TEL 027(385)5800

【本資料お取扱い上のご注意】

本資料は、株式会社岡本工作機械製作所(以下、当社)をご理解いただくため、当社が作成したもので、当社への投資活動勧誘を目的としておりません。

本資料を作成するにあたっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予測ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果があります。